

NPPV が有効であった肥満低換気症候群による 型呼吸不全の一例

吉村 力¹⁾ 久良木隆繁²⁾ 石橋 正義³⁾
荒牧竜太郎¹⁾ 豊島 秀夫¹⁾ 白石 素公¹⁾
藤田 昌樹¹⁾ 渡辺憲太郎¹⁾

1) 福岡大学医学部呼吸器内科

2) 福岡大学筑紫病院第2内科

3) 太宰府病院

要旨：59歳男性．55歳頃から肥満症，本態性高血圧症，高脂血症，高尿酸血症で加療している．2000年7月上旬から意識障害，チアノーゼ，羽ばたき振戦が出現し入院となった．著明な肥満，高度の低酸素血症と高二酸化炭素血症により，肥満低換気症候群と診断した．入院後非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）を開始し，高二酸化炭素血症，意識障害は著明に改善した．1ヶ月間のNPPV，食事・運動療法により，心不全は改善し，体重は102kgから86kgに減少した．CT上内臓脂肪が減少し，横隔膜の可動性と肺気量分画およびCO₂換気応答の改善が得られた．

キーワード：肥満低換気症候群，非侵襲的陽圧換気療法（NPPV），内臓脂肪面積，体重